

蜂窩織炎症例の超音波画像

内田啓一, 藤木知一, 深澤常克
長内 剛, 和田卓郎

松本歯科大学 歯科放射線学講座 (主任 和田卓郎 教授)

蜂窩織炎は炎症が疎性結合組織に進展し重篤な炎症性変化を示すものである。今回、我々は右側蜂窩織炎の超音波画像を経験したので、その写真を供覧する。

患者は46歳男性で平成9年6月6日顎下部の腫脹を認めたため急患にて本学を受診し、消炎処置を行った。しかし、その後、耳下腺相当部にまで腫脹が波及したため某医院を受診し、抗生剤等の投与を受け顎下部の腫脹は軽減した。その後、精査のため本学を受診した。受診時の口腔外所見は顔貌は左右非対称であり右側顎下部、耳下腺部より頸部にかけて強度のび慢性腫脹を認めた。また、同部は弾性硬で熱感と圧痛を認めた。

炎症の波及の程度を診断するためCT検査及び超音波検査を行った。CT画像所見では (Figure 1), 胸鎖乳突筋部での腫脹が著明であり、その内部に境界不明瞭な膿瘍形成を思わせる low density zone が認められる。また、周囲組織への炎症の波及像も認められる。CT画像においてみられた low density zone の質的診断を行なうために

超音波検査を行った (Figure 2)。7.5 MHz リンヤプローブを使用し腫脹部を水平に走査した。腫脹部は全体的に高エコー像と低エコー像が混在しているのが認められる。その内部にCT画像でみられた low density zone と思われる像が認められる。その境界は比較的明瞭であり、その内部は cystic pattern と mixed pattern が混在している不均一なエコー像を呈している。また、後部エコーの増強が認められる。臨床症状、CT画像および超音波画像より右側頸部蜂窩織炎および膿瘍と診断を下した。CT画像においてみられた不明瞭な low density zone は超音波検査において比較的明瞭に膿瘍像として描出されたことにより質的な診断が有用であると思われた。しかし、蜂窩織炎や膿瘍の超音波画像はその炎症の時期や液性物質の性状により多彩な内部エコー像を呈する。膿瘍のエコーパターンとしては cystic pattern, solid pattern のものが多く、今回の症例のように cystic pattern と mixed pattern が混在している症例は比較的少ないと思われる。

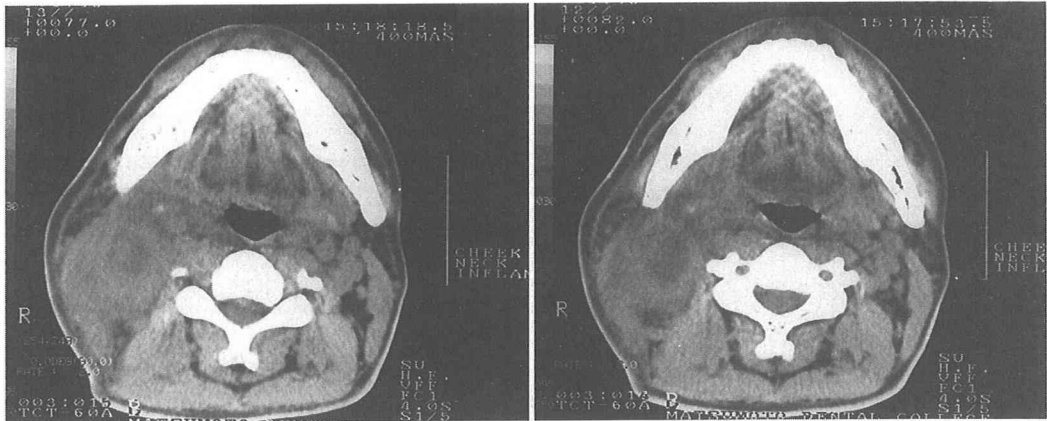


Figure 1: CT scan revealed obvious swelling at the sternocleidomastoid muscle with a poorly defined surrounding low density zone indicating an abscess.

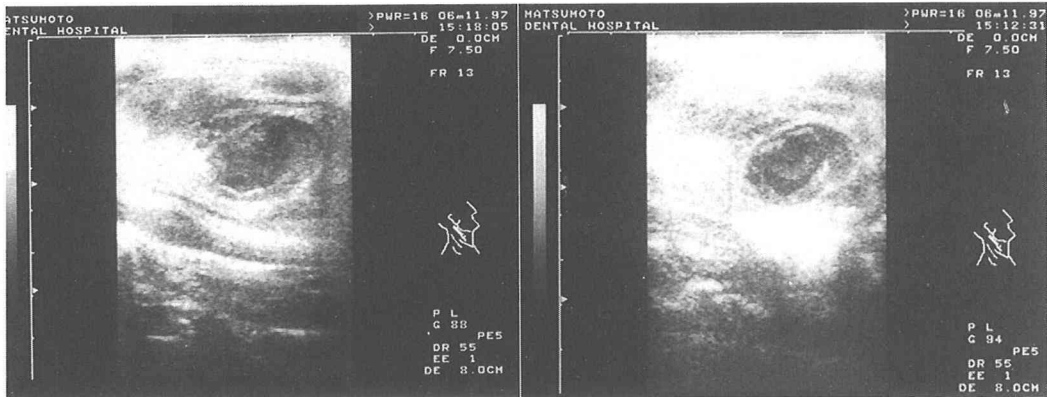


Figure 2: High and low echo images were admixed throughout the swollen part. The abscess had relatively well-defined borders and its inside revealed nonuniform mixed echo of cystic patterns and mixed echo of cystic patterns and mixed patterns. Posterior echo is enhanced.